

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年2月8日

BMJ:

コロナ孤児

【松崎雑感】

保護者を新型コロナ感染で失った子どもに、しっかりしたサポートをする必要があるという論説です。

死亡診断書ベースで、コロナ孤児を同定できるシステムを作る事が重要のようです。メンタルケアと経済ケアの両面が必要とされています。

〇〇孤児と言うコンセプトは、他の疾患による保護者の死亡においても応用できると気づきました。

コロナ孤児

Cox D. **What will happen to the orphans of covid-19?**. **BMJ.** 2022;379:o2838. Published 2022 Dec 7. doi:10.1136/bmj.o2838

1050万人以上の子どもたちが新型コロナパンデミックで親を亡くし、孤児となった

パンデミック当初から、ジョン・ブリッジランド氏とゲイリー・エドソン氏は、目に見えない被害が起きていることに気が付いた。

この二人は、ブッシュ政権でサハラ以南のエイズ緊急事態対策を担った経験があり、重症の感染症により親を失った子どもたちが大きな困難に直面することを十分理解していた。エイズアウトブレイクでは1490万人が孤児となった事実が、彼らに、医療、教育、経済の専門家を結集して米国における支援組織Covid Collaborative始めるきっかけとなった。

「ジョンとゲイリーはパンデミックのはじめから、米国だけでなく全世界で孤児が激増するだろうと予測していた。われわれはホワイトハウスだけでなく、連邦議会や有力者に働きかけて、コロナで親を失った子どもたちの支援を行うようになった」とコロナ孤児を支援する団体の代表キャサリン・ジェインズ氏は語った。

この支援団体は、2021年に「Hidden Pain」と題したコロナ孤児にかんする初期の報告書を発表した。それによれば、これまでに世界中で1050万人以上がコロナ孤児となり、低所得国に大きな経済的負荷をかけていることが分かったという。2022年5月には、コロナ孤児の40.9%が、アフリカ諸国で発生していると報告されている。エジプト、インド、インドネシア、ナイジェリア、パキスタンで特に多い。

高所得国では、エスニックマイノリティにコロナ孤児が多く発生している。Hidden Painでは、アメリカ先住民、アラスカ先住民、ハワイ先住民、太平洋諸島先住民で、白人の4倍、黒人とスペイン系の人々の2.5倍の率でコロナ孤児が確認されている。コロナ孤児の置かれた状況こそ、新型コロナウイルスの最も深刻な長期的影響であると言える。

エイズ孤児の30年間の調査の結果、保護者を失った子どもたちは、アルコール依存、薬物依存、うつ病、不安、自殺などのメンタルヘルス不全が多く、人間関係の不調、失業、学業放棄などが多いことが分かっている。

しかし、政府がどのような対策を進めたなら、これらの悪影響を防げるかがわかるまで長い期間を要した。

WHOと提携しているNGO、Global Reference Group on Children Affected by Covid-19 in Crisisの共同代表スーザン・ヒリス氏は「我々は文字通り、効果的な対策を作るためにどうすればよいかを研究した。

その結果、政治が本気になって、国、地域、全世界的対策を迅速に作る必要があることが分かった」と述べている。

助けなければならない人々を探し出す

孤児を探し出すのが、最も困難な課題であり、ほとんどの国では、システムが整備されていない。

ブラジルにはコロナ孤児が158600人いると推定されている。ブラジルは、5年前に、死亡診断書に残された子供が18才未満であるかのチェック欄を作った。

これにより、支援の必要なこどもにアクセスすることが容易となった。ヒリス氏は、この仕組みによって、子どもが無事かどうか、通学しているか、衣食住は足りているか、養子となれる環境があるかなどを評価できると語った。

「このシステムを導入したいと考えている国もいくつか存在する。私はマラウイ、ザンビアの指導者にこの件を話し合いたいと思っている」と彼女は語った。

アメリカでさえ、この様な仕組みは持っていない。Covid Collaborativeは、ユタ州で、2か月以内にパイロットスタディを実施する予定である。保護者の死亡で孤児となる恐れのある子供を見つけ出すために、様々な情報処理ができるようにすることを目指している。

「ユタ州には先住民の人々が多い。特にアメリカ先住民の人々は新型コロナで大きな健康影響を受けた。ここでコロナ孤児を見つけ出すシステムの有効性が確認されたなら、1～2年以内に他の州に拡大したいと考えている」と彼女は語った。

コロナ孤児の将来を保証する

コロナ孤児を見つけ出して、彼らの将来をどのように保証するかが次の課題だ。ハーバード大学の神経科学専門家で、ルーマニアの施設に収容された子どもたちに関する研究で有名なチャールズ・ネルソン氏は、コロナ孤児を孤児院に収容しない対策を進めるべきだと語った。

「孤児になった子どもたちに、安心して落ち着いて暮らせる環境を保証しなければならない。どんなことがあっても、孤児院収容ではなく、家族的なケアを受けられる生活ができるようにすべきだ。もし、親戚がいなければ、養子として永続的に養育される環境を提供する必要がある。施設収容期間が長くなるほど、子どもたちの発達が阻害されるために、様々な望ましくない結果をもたらすことを認識することが重要だ」と彼は語った。

インドでは、200万人以上のコロナ孤児が発生しており、NGOは、地方の行政当局にコロナ孤児の人数、養子縁組の可能性に関するデータ提供を要請している。こうすることにより、養子縁組が円滑に進む。

ヒリス氏は、信仰共同体（宗教団体）とのコラボで、支援の必要な孤児を探し出し新たな家庭生活を提供するモデルがないかどうかを調査している。

彼女は、テキサス州のブラウズビルで、アフリカ系アメリカ人の牧師団が地域の学校やソーシャルワーカーと共同でコロナ孤児を支援する活動を行っている例を例示した。「彼らは長年にわたり、孤児がよりよい環境の家庭に迎えられるように支援をしてきた。それぞれの地域の行政当局が宗教分野のリーダーとコラボしている州は27州に増えている」

しかし、孤児の養子先を見つけたならそれで終わりというわけにはいかない。適切な養育に必要な経済的支援も必要である。ヒリス氏はコロナ孤児の3分2が、父親を亡くしており、経済的困難が大きい（片親が生存している場合も孤児とよぶのか?? : 松崎）。

「何よりも親族が孤児のケアを引き継ぐことが、子どもにとって最も望ましいことは明らかだ。しかし、親族といえども、現下でも相当な経済的困難に直面している。したがって、孤児のケアを引き継ぐ家庭に対する直接の現金が是非とも必要だ」とオクスフォード大学の小児と家族関係ソーシャルワーク専門家ルーシー・クルーバー氏は語った。

レガシー

これまでに、メキシコ、ペルー、南アフリカで、コロナ孤児に対する奨学金などの形での現金給付が実施されている。さらに、ブラジルの11州と主要都市で、同様の施策の検討と提案が行われている。コロンビアでは、コロナ孤児の問題を、国家小児育成アクションプランの課題として取り上げ、孤児の登録と包括的ケアプラン、定期的な金銭的援助を実施するための検討を行っている。

しかし、エイズに続いてコロナに襲われたザンビアの様な最貧国では、外国からの援助なしには切り抜けることができないとヒリス氏は主張する。「ザンビアのエイズ孤児は世界で最も多い。

しかも今回、コロナ孤児が45800人と推計されている」と彼女は語った。ザンビアでは、近所の人々の間での助け合いが伝統的に行われてきた。しかし、今回のコロナパンデミックで失業が増えたために、自分の家族以外に食事などの支援をする余裕はなくなったと彼女は述べている。

同時に、この問題の研究者は、高所得国でさえ、自分の国のコロナ孤児に対する特別の支援プログラムを実行していないことに不満を募らせている。

イギリスには15600人のコロナ孤児がおり、NHSのソーシャルケアの対象となる予定である。しかし、コロナ孤児に対するメンタルサポートプランがないことに失望が広がっている。「イギリス政府がこの問題に取り組む動きがまったくないことに失望する。

これまでのスキームができるだけコロナ孤児を支援するうえで活用できるよう頑張りたい」とインペリアルカレッジ・ロンドン公衆衛生専門家ジュリエット・アンウィン氏は述べた。

カリフォルニア州当局は、ベビーボンドと呼ばれる資金から1億ドルを、コロナ孤児が成人に達するまでの支援資金として活用することを決めた。

しかし、ホワイトハウスが大統領覚書によってコロナ孤児の窮状を認識しているにもかかわらず、連邦議会では、何らの支援策も討議の対象とされていない。

ジェインズ氏は「最初の妻を亡くし、子どもたちをシングルファーザーで育てたという経歴を持つバイデン大統領には共感の得られる問題だと思う。バイデン大統領の一般教書演説あるいは次年度予算で、コロナ孤児に対する何らかの支援がうたわれることを期待している」と述べた。

ヒリス氏は、多くの国々がコロナ孤児に大きな援助計画を実施することが重要だと述べている。「経済的援助とメンタルサポートの両方が必要だ」と。

「エボラ出血熱では感染者の半数が亡くなった。その犠牲者の子どもの半数が孤児となった。歴史は繰り返されつつある」と彼女は語った。